

## 学んだことを地域に発信

### 〈吉良中学校文化祭〉

生徒たちが学んだことや体験したことを、吉良中学校文化祭において、保護者や地域の方に発信しました。ロープ結索や新聞紙を使った避難所簡易グッズ作りなど、自信をもって保護者等に教えることができました。また、PTA 役員協力のもとで「もくもくハウス」（煙体験）を実施するなど、地域ぐるみで防災に対する意識の向上を図ることができました。



ロープ結索を保護者等に教える様子



PTA 役員も協力

### 〈防災学習発表会〉

第1部では、近藤アドバイザーの進行のもとで、代表生徒による意見交換会を行いました。防災学習を通して得た知識や考えをもとに、「これから取り組んでいきたいこと」などについて発表しました。そして、防災には地域の繋がりがいかに大切であるかということも、参加者に訴えることができました。

第2部では、佐藤敏郎氏（スマートサバイビジョン特別講師）より、「3.11を学びに変える」をテーマに講演を行っていただきました。参加者（教員）からは「子どもたちの命を輝かせることが私たち教師の使命であると、改めて気づかされた」などの感想が聞かれ、防災を見つめ直す機会とすることができました。



自分の考えを堂々と発表する代表生徒



講演する佐藤氏



「防災5・7・5」を発表

## 平成30年度のモデル地域（一色地区）の取組

### 一色中学校〈津波避難訓練〉

一色中学校では、昨年度に引き続き、今年度も1年生約250人が津波避難訓練を行いました。出身校となる4つの小学校及び一色町公民館の5か所を出発地点とし、それぞれが津波浸水想定区域外までのおよそ5kmの道のりを歩きました。

今後も、1年生を中心に津波避難訓練を継続実施し、「津波から命を守る行動」を身に付けていきます。



「非常持ち出し袋」に代わる荷物（1人2ℓの水+α）を持参して避難

### 一色中部小学校〈避難所設営訓練〉

一色中部小学校は、一色地区で唯一津波浸水のない学校のため、津波災害時でも避難所となります。そこで、1年生から5年生までの児童が避難者役、6年生が避難所設営・運営役となり、災害時を想定した避難所設営訓練を行いました。

防災資機材庫などに備蓄してある物資を運び出し、テントやトイレを設営したり、体育館に通路を確保した上で避難者スペースを町内会ごとに区切ったりしました。受付も自分たちで行い、およそ400人の避難者（1～5年生）をスムーズに受け入れることができました。



防災倉庫から物資を運び出す



トイレの設営



受付の様子



町内会ごとの避難スペースを確保

今後も学校・地域・行政が連携し、  
学校安全に係る取組をさらに推進していきます！

作成：西尾市危機管理課 防災担当 0563-65-2138

